

14番 児玉 美環子 議員

1 コロナ禍における女性の負担軽減と子どもの貧困対策について

- (1) コロナ禍において減収や失職等で女性の経済的困窮が顕著になっている。本市の状況をどのように認識しているか。
- (2) 経済的に困窮した女性が生理用品を購入しにくくなる「生理の貧困」を巡り、各自治体で対策が組まれている。本市において公共施設の個室トイレに生理用品を無償で設置提供するなどの「生理の貧困」を軽減する対策は考えているか。
また、学校現場での対応は考えているか。
- (3) 困難を抱える女性が、話しやすく相談しやすい環境づくりと場の設置をどのように考えているか。
また、教育現場では子どもたちの小さな声を受け止めるために、どのように取り組んでいるか。
- (4) データベースを活用した子どもの貧困対策が自治体に求められている。福祉・子育て支援部門と教育委員会の相互の情報を一元化することで、より子どもの困窮状態が把握しやすくなると考えるが、本市の今後の方針を示されたい。
- (5) コロナ禍で女性や小中高生の自殺者数は増加している。自殺防止の更なる対策強化の取組を示されたい。

2 教育行政について

- (1) 不登校の児童生徒が安心して学べる環境づくり・居場所づくりが重要であると考え。文部科学省は、自宅でのオンライン学習でも出席扱いとするよう通知しているが、この制度の活用に関して本市の見解を示されたい。